

製品名: GABA B 受容体 2 (8E15) ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe11229**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,FC,IF-P
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.28mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	ウサギ IgG（リン酸緩衝生理食塩水、pH 7.4、150mM NaCl、0.02%新型保存料 N、50%グリセロール含有）。短期保存は+4°C、長期保存は-20°Cで保存してください。凍結融解サイクルは避けてください。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:200,FC 1:20-1:50,IF-P 1:100-1:200
分子量	106kDa

抗原情報

遺伝子名	GABBR2
別名	GAB B R2; GABA-BR2; GABABR2; GABB R2; Gabbr2; Gb2; GPR51; GPRC 3B; HG20; R2 SUBUNIT;
遺伝子 ID	9568.0
SwissProt ID	O75899
免疫原	ヒト GABA B 受容体 2 の合成ペプチド

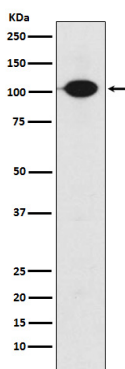
背景

GABA 受容体。この受容体の活性は、アデニル酸シクラーゼ活性阻害、ホスホリパーゼ A2 刺激、カリウムチャネル活性化、電位依存性カルシウムチャネル不活性化、イノシトールリン脂質加水分解調節を行う G タンパク質によって制御される。抑制性シナプス伝達の微調整において重要な役割を果たす。GABBR1 と GABBR2 によって形成されるヘテロ二量体 G タンパク質共役型 GABA 受容体の構成要素である (PubMed:9872316、PubMed:9872744、PubMed:15617512、PubMed:18165688、PubMed:22660477、PubMed:24305054)。

ヘテロ二量体 GABA 受容体において、GABBR1 のみがアゴニストに結合し、GABBR2 は G タンパク質との共役を媒介すると考えられています (PubMed:18165688) 。リガンド結合により構造変化が引き起こされ、グアニンヌクレオチド結合タンパク質 (G タンパク質) を介したシグナル伝達が誘導され、アデニル酸シクラーゼなどの下流エフェクターの活性が調節されます (PubMed:10075644、PubMed:10773016、PubMed:24305054) 。シグナル伝達は、アデニル酸シクラーゼを阻害し、ホスホリパーゼ A2 を刺激し、カリウムチャネルを活性化し、電位依存性カルシウムチャネルを不活性化し、イノシトールリン脂質の加水分解を調節する (PubMed:10075644、PubMed:9872744、PubMed:10906333、PubMed:10773016) 。抑制性シナプス伝達の微調整において重要な役割を果たしている (PubMed:9872744、PubMed:22660477) 。シナプス前 GABA 受容体は、高電圧活性化カルシウムチャネルのダウンレギュレーションによって神経伝達物質の放出を抑制します。一方、シナプス後 GABA 受容体は、後期抑制性シナプス後電位の基盤となる顕著な内向き整流性カリウム (Kir) コンダクタンスを活性化することで、ニューロンの興奮性を低下させます (PubMed:9872316、PubMed:10075644、PubMed:9872744、PubMed:22660477) 。シナプス抑制だけでなく、海馬長期増強、徐波睡眠、筋弛緩、鎮痛にも関与していると考えられます (可能性あり) 。

研究分野

画像データ



SH-SY5Y 細胞溶解物中の GABA B 受容体 2 発現のウェスタン ブロット分析。